

スズキ、軽乗用車 新型「アルト」を発売



アルト HYBRID X

スズキ株式会社は、軽乗用車 新型「アルト」を2021年12月22日より発売する。

「アルト」は、1979年5月に運転のしやすさ、使い勝手のよさ、経済性の高さなどを兼ね備えた実用的な軽自動車として発売され、新しい市場を切り拓いた。

また、発売以来、時代にあわせて機能や性能を進化させ、42年、8代にわたり多くのお客様にご愛用いただき、国内累計販売台数は約526万台^{*1}となるスズキの軽自動車を代表するモデルである。

今回9代目となる新型「アルト」は、誰もが気軽に安心して乗れる、世代を超えて親しみやすく愛着のわくデザインを採用し、内外装を一新した。

また、従来のR06A型エンジンとエネチャージの組み合わせに加え、R06D型エンジンとマイルドハイブリッド^{*2}の搭載でさらなる低燃費を実現し、WLTCモード燃費では軽自動車トップの27.7km/L^{*3}を達成した。

安全面では、ガラスエリアを拡大し、視界を広くしたほか、夜間の歩行者も検知するデュアルカメラブレーキサポートなどを搭載する「スズキ セーフティ サポート」と6エアバッグ^{*4}を全車に標準装備した。

また、必要な情報をフルカラーで見やすく表示するヘッドアップディスプレイ^{*5}を採用し、ステレオカメラで認識した道路標識をヘッドアップディスプレイ^{*5}に表示する標識認識機能を搭載した。

さらに全方位モニター用カメラ^{*5}装着車には、狭路でのすれ違い時の接触防止をサポートするすれ違い支援機能も採用した。

パッケージングでは、全高、室内高、室内幅の拡大^{*6}により、広い室内空間を実現したほか、フロントドア開口部の高さも拡大^{*6}し、前席の乗降性を高めた。

インパネには、ドライバーから手の届く位置に収納スペースを豊富に設置したほか、運転席・助手席から使いやすいUSB電源ソケット(2個)^{*5}を装備した。さらに、スズキ国内初となる7インチのディスプレイオーディオ^{*7}を採用し、バックアイカメラや全方位モニター^{*5}の映像を表示できるほか、さまざまな車両情報の確認や、ヘッドアップディスプレイ^{*5}への交差点案内^{*8}などの表示も可能とした。また、スマートフォンとの連携^{*9}によるナビ表示、音楽の再生など、充実した機能を搭載した。

走行性能では、低燃費と軽快な走りを実現するエンジンに加え、軽量・高剛性のプラットフォーム「HEARTECT(ハーテクト)」のほか、環状骨格構造や高減衰マスチックシーラーの採用により操縦安定性や乗り心地、静粛性を向上した。

新型「アルト」は、経済産業省や国土交通省などが普及を推進する「サポカーS ワイド」^{*10}、国土交通省による「衝突被害軽減ブレーキ(AEBS2)認定車」^{*11}、「ペダル踏み間違い急発進抑制装置(PMPD)認定車」^{*11}に該当する。

- ※1 アルト乗用車、商用車の届出台数(アルト ラパンを除く)、一般社団法人 全国軽自動車協会連合会データより 2021 年 11 月末現在、スズキ調べ。
 - ※2 HYBRID S、HYBRID Xに搭載。
 - ※3 軽自動車クラス。WLTC モード走行燃費(国土交通省審査値)に基づく。HYBRID S、HYBRID Xの 2WD車。2021 年 12 月現在、スズキ調べ。
 - ※4 6 エアバッグは、運転席・助手席SRSエアバッグ、フロントシートSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ。
 - ※5 HYBRID X 全方位モニター付ディスプレイオーディオ装着車、HYBRID X 全方位モニター用カメラパッケージ装着車に装備。
 - ※6 先代アルトとの比較。
 - ※7 HYBRID X 全方位モニター付ディスプレイオーディオ装着車、A、L、HYBRID Sにバックアイカメラ付ディスプレイオーディオ装着車としてメーカーオプション設定。
 - ※8 HYBRID X 全方位モニター付ディスプレイオーディオ装着車でスマートフォン連携をして対応する地図アプリを使用した場合と HYBRID X 全方位モニター用カメラパッケージ装着車に対応したナビゲーションを装着した場合に表示されます。
 - ※9 スマートフォンの機種、ソフトウェアによっては、別売りのケーブルが必要となります。また、対応していない機種もあります。
 - ※10 衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術をはじめとする一定の運転支援機能を備えた車(安全運転サポート車。略称・サポカー)のうち、ペダル踏み間違い時加速抑制装置などを搭載することで特に高齢運転者に推奨される「サポカーS」の区分のひとつ。「サポカーS ワイド」は、衝突被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、車線逸脱警報、先進ライトを搭載する車。
 - ※11 事故防止対策の一環として、衝突被害軽減ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置が一定の性能を有していることを国土交通省に認定された車。
- * 安全運転を支援する機能の検知性能・制御性能には限界があり、状況によっては正常に作動しない場合があります。これらの機能に頼った運転はせず、常に安全運転を心掛けてください。

●新型「アルト」の主な特長

1. 世代を超えて親しみやすく愛着のわくデザイン
2. マイルドハイブリッド※2 の搭載で優れた燃費性能を実現
3. スズキの予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」を全車に標準装備
4. 全高、室内高、室内幅を拡大※6 し、広い室内空間を実現
5. 豊富な収納と使い勝手の良い装備を搭載
6. 優れたボディー剛性と防音・防振対策により快適な乗り心地と静粛性を実現

●目標販売台数(月間)「アルト」 6,000台

●メーカー希望小売価格(消費税10%込み)

機種名	エンジン	駆動	変速機	燃料消費率 WLTCモード走行 (km/L)	燃料消費率 JC08モード走行 (km/L)	エコカー減税 (重量税)※12	価格(円)
A	0.66L DOHC	2WD	CVT	25.2	29.4	-	943,800
		4WD		23.5	28.7		1,075,800
L		2WD		25.2	29.4		998,800
		4WD		23.5	28.7		1,129,700
HYBRID S	0.66L DOHC 吸排気VVT マイルド ハイブリッド	2WD		27.7	33.1	免税	1,097,800
		4WD		25.7	30.2	50%	1,228,700
HYBRID X		2WD		27.7	33.1	免税	1,259,500
		4WD		25.7	30.2	50%	1,379,400

* 2WD は前輪駆動。
 * 価格には、リサイクル料金、保険料、税金(除く消費税)、届出等に伴う費用は含まれない。
 * WLTC=Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle 市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。
 ※12 記載の重量税減税率は2023年4月30日新車届出までとなります。

●メーカーオプション一覧

メーカーオプション名	設定機種
全方位モニター付ディスプレイオーディオ装着車 ディスプレイオーディオ[7 インチディスプレイ、AM/FMラジオ・スマートフォン連携機能付、Bluetooth®対応]、全方位モニター用カメラ[フロント/サイド(左右)/バックカメラ]、ヘッドアップディスプレイ[カラー]、USB電源ソケット(インパネ、2 個)、ステアリングオーディオスイッチ、標識認識機能[最高速度、はみ出し通行禁止、補助標識「終わり」、一時停止、車両進入禁止]、USBソケット、GPSアンテナ、マイク	HYBRID X
全方位モニター用カメラパッケージ装着車 全方位モニター用カメラ[フロント/サイド(左右)/バックカメラ]、ヘッドアップディスプレイ[カラー]、USB電源ソケット(インパネ、2 個)、ステアリングオーディオスイッチ、標識認識機能[最高速度、はみ出し通行禁止、補助標識「終わり」、一時停止、車両進入禁止]、USBソケット、GPSアンテナ、TV用ガラスアンテナ	HYBRID X
LEDヘッドランプ装着車 LEDヘッドランプ[ハイ/ロービーム、マニュアルレベリング機能付]、スモークガラス(リヤドア、バックドア)、UVカット機能付ガラス(全面)	HYBRID S
バックアイカメラ付ディスプレイオーディオ装着車 ディスプレイオーディオ[7 インチディスプレイ、AM/FMラジオ・スマートフォン連携機能付、Bluetooth®対応]、バックアイカメラ、ステアリングオーディオスイッチ、USBソケット、GPSアンテナ、ハンズフリーマイク、ステアリングガーニッシュ[シルバー]	A L HYBRID S
アップグレードパッケージ装着車 フルオートエアコン[エアフィルター付]、リヤシートヘッドレスト、LEDヘッドランプ[ハイ/ロービーム、マニュアルレベリング機能付]、スモークガラス(リヤドア、バックドア)、助手席シートヒーター(2WD車) ※4WD車は標準装備、UVカット機能付ガラス(全面)、運転席シートリフター、パニティミラー(運転席)、ステアリングガーニッシュ[シルバー]	L
ホワイト2トーンルーフ仕様車	Lアップグレードパッケージ装着車 HYBRID S HYBRID X
ピュアホワイトパール塗装	L HYBRID S HYBRID X

* Bluetooth®は米国 Bluetooth SIG, Inc.の登録商標

* ステアリングガーニッシュ[シルバー]はアップグレードパッケージ装着車・バックアイカメラ付ディスプレイオーディオ装着車のいずれかを選択された場合に装着されます。

●メーカーオプション価格(消費税10%込み)

メーカーオプション名	価格(円)
全方位モニター付ディスプレイオーディオ装着車	112,200
全方位モニター用カメラパッケージ装着車	79,200
LEDヘッドランプ装着車	57,200
バックアイカメラ付ディスプレイオーディオ装着車	55,000
アップグレードパッケージ装着車	132,000
ホワイト2トーンルーフ仕様車	44,000
ピュアホワイトパール塗装車	22,000

●新型「アルト」の主な特長

1. 世代を超えて親しみやすく愛着のわくデザイン

エクステリア

- ・「気軽」「安心」「愛着」をコンセプトとし、ベーシックなスタイルによって、誰もが気軽に安心して乗れる親しみやすいデザイン。
- ・親しみやすさを演出するために、丸みを帯びた柔らかなフォルムの中に楕円形のモチーフを取り入れ、小さな車体でも安心感のある立体的な断面にこだわった造形。
- ・LEDヘッドランプを採用し、フロントマスクにはヘッドランプと一体感のあるメッキフロントバンパーガーニッシュを採用。(LEDヘッドランプはL アップグレードパッケージ装着車、HYBRID S LEDヘッドランプ装着車、HYBRID Xに装着。メッキフロントバンパーガーニッシュはHYBRID S、HYBRID Xに装着。)
- ・ホイールには、シャープなスポーク形状の14インチアルミホイールのほか、楕円形をモチーフとした14インチフルホイールキャップを設定。(14インチアルミホイールはHYBRID X、14インチフルホイールキャップはL、HYBRID Sに採用)

インテリア

- ・エクステリアと同様に「気軽」「安心」「愛着」をコンセプトとし、抑揚のある面や線で厚みと立体感を表現した毎日乗っても飽きのこないデザイン。
- ・インパネとドアトリムに落ち着きのあるネイビーカラーを採用し、質感の高さや居心地のよさを表現。
- ・あらゆる世代で親しまれているデニム調のシート表皮を採用。シート背面はブラウンとし、シート全体で親しみやすさを演出。

ボディーカラー

- ・新色の「ダスクブルーメタリック」と「ソフトベージュメタリック」をはじめとするモノトーンカラーに加え、ホワイト2トーンルーフ車4色を含む計12パターンのラインアップとし、自分好みの色が選択できるよう、多彩なボディーカラーを設定。(ホワイト2トーンルーフ車はL アップグレードパッケージ装着車、HYBRID S、HYBRID Xにメーカーオプション設定)

2. マイルドハイブリッド^{※2}の搭載で優れた燃費性能を実現

- ・低速から中高速までの実用速度域で優れた燃費性能と軽快な走りを実現するR06D型エンジンとISG(モーター機能付発電機)と専用リチウムイオンバッテリーを組み合わせた独自のマイルドハイブリッド^{※2}システムを搭載。(HYBRID S、HYBRID X)
- ・WLTCモード燃費では軽自動車トップの27.7km/L^{※3}を達成し、軽自動車初の2030年度燃費基準95%達成でエコカー減税(重量税)^{※12}免税。(HYBRID S、HYBRID Xの2WD車)
* 2021年12月現在、スズキ調べ
- ・低燃費と力強い走りを両立するR06A型エンジンと、減速時のエネルギーで発電・充電し、無駄な燃料消費を抑える「エネチャージ」を採用。発電によるガソリン消費を最小限に抑えるとともに、エンジンへの負担を軽減して軽快な走りにも貢献。(A、L)

3. スズキの予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」を全車に標準装備

- ・夜間の歩行者も検知するステレオカメラ方式の衝突被害軽減ブレーキ「デュアルカメラブレーキサポート」をはじめ、誤発進抑制機能、車線逸脱警報機能、ふらつき警報機能、先行車発進お知らせ機能、ハイビームアシスト、後退時ブレーキサポート、後方誤発進抑制機能を全車に標準装備。
- ・6エアバッグ(運転席・助手席SRSエアバッグ、フロントシートSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ)を全車に標準装備。
- ・運転に必要な情報をフルカラーで見やすく表示するヘッドアップディスプレイ^{※5}を採用し、視線移動を

減らすことでドライバーの視線移動の負担を軽減。また、ステレオカメラが認識した道路標識をヘッドアップディスプレイ^{※5}に表示する標識認識機能[最高速度、はみ出し通行禁止、補助標識「終わり」、一時停止、車両進入禁止]も採用。

- ・全方位モニター用カメラ^{※5} 装着車には、狭い道を低速(5km/h以下)で走行中、ステレオカメラが対向車とのすれ違いを検知し、自動でモニターに「サイド(左側)+フロント映像」を表示し、狭い道でのすれ違いで死角を減らし、壁や対向車との接触防止をサポートするすれ違い支援機能を搭載。

4. 全高、室内高、室内幅を拡大^{※6}し、広い室内空間を実現

- ・全高を 50mm、室内高を 45mm、室内幅を 25mm拡大し、前席・後席ともに広いヘッドクリアランスやゆとりあるショルダー룸とすることで広い室内空間を実現。
- ・フロントドア開口部の高さを 20mm拡大して前席の乗降性を向上。
- ・室内空間を拡大しながら、最小回転半径は 4.4mとし、良好な小回り性を実現。

5. 豊富な収納と使い勝手の良い装備を搭載

- ・新設のインパネトレイ(助手席)やフロアコンソールトレイ、インパネドリンクホルダー(運転席、助手席)をはじめ、大型のスマートフォンも収納できるインパネセンターポケットなど、ドライバーから手の届く位置に豊富な収納スペースを設置。
- ・インパネ中央には、スマートフォンなどが充電できるUSB電源ソケット(2個)^{※5}を新たに装備。
- ・スズキ国内初となる 7 インチのディスプレイオーディオ^{※7}を採用し、バックアイカメラや全方位モニター^{※5}の映像を表示できるほか、燃費、航続距離情報や車両警告情報など、車両情報の確認が可能。ラジオの視聴や Bluetooth[®]接続による音楽再生の他に、スマートフォンとの連携^{※9}によるナビ表示、ヘッドアップディスプレイ^{※5}への交差点案内^{※8}表示など充実した機能を搭載。

6. 優れたボディー剛性と防音・防振対策により快適な乗り心地と静粛性を実現

- ・剛性、衝突性能、走行性能などに優れ、軽量化にも貢献する軽量・高剛性のプラットフォーム「HEARTECT(ハーテクト)」を採用。
- ・バックドア、センターピラー、サイドドアでそれぞれ環状構造を形成する「環状骨格構造」とすることで、ボディー全体の剛性を向上。
- ・ボディーのルーフパネルとルーフメンバーの接合部に高減衰マスチックシーラーを採用し、こもり音や雨音を低減。